

Nonprofit organization Susanoo no kaze
NPO法人スサノオの風 第141号 2019年初夏

風のたより



E-mail : susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp HP : http://susanoo-kaze.jp/

〒693-0506 島根県出雲市佐田町反辺 1747-4 TEL: 0853-84-0833 FAX: 0853-84-0834



7月は夜開催!!! 縁日コタバ



また、出店してみたい方、協力して下さい方も、募集しておりますので、お気軽にお問い合わせください。ぜひ、コタバに遊びにきてください。

たくさんの人に楽しんでもらえるように
昨年から続けて開催している「さだのちいさなマーケット cotaba」は、若者向けのイベントと思われがちですが、出店者さんやご来場の方の年齢層は様々で、幅広い世代の方に楽しんでいただいております。
そして、7月のコタバは夕刻から開催します。夏といえば縁日。金魚すくいやかたヌキ、綿菓子にヨーヨーなど、誰もが楽しめる内容を企画しております。

さだのちいさなマーケット cotaba

日時: 2019年7月14日(日) 17時~20時

場所: スサノオホール

※なお8月以降は通常通り10時~14時の開催となります。





佐田町にUIターン⑤

ああ、カレーなる人生 吉田 麻衣子 (よしだ まいこ) さん

神奈川県出身

邑南町に1年間

2012年。邑南町に1年間住んでいたことがある。邑南町にある「香木の森公園」のハーブ園で研修生として、植物の栽培や販売など管理の仕事をしていた。また地域のお宅にお伺いして、しめ縄やわらじ作りなど、田舎ならではの体験をさせてもらった。このことが、住民の方と交流する良い機会にもなり、邑南町で充実した生活を送ることが出来た。

再び島根に移住する

1年間の移住を経て、地元に戻ることになる。帰った当初は、また島根に住みたいという思いもあったが、次第に日常に押し流され、島根のことは薄れていった・・・

それから、数年経ったころ、住んでいた場所で、なかなかうまくいかなかったり、モヤモヤしたり、息詰まるようになっていった。このままではダメだと思い、再び地方への移住を考えるようになる。この時、移住の候補として、島根だけでなく他の県も考えていたそうだが、縁あって、この度出雲市佐田町に移住することになった。

そして、2019年5月から、スサノオの風で働いている。



スサノオの風
SUSANO-O no KAZE
新築・新築一軒を元気にするために～

吉田 麻衣子

スサノオホール NPO事務所
〒692-0506 島根県出雲市佐田町坂田27-6
(TEL) 0853-84-0833 (FAX) 0853-84-0834
(個人メール) s.sano@susano-hall.jp

スポーツセンター
〒692-0506 島根県出雲市佐田町坂田27-6
(TEL) 0853-84-0833 (FAX) 0853-84-0834
(個人メール) s.sano@susano-hall.jp

びこ 888

住んでみて

以前、邑南町に住んでいた頃に、佐田町に足を運んだことがあり、その時、“のんびり” “懐かしい感じ” “初めて来た感じがしない” と思ったそうだ。

しかし、実際に佐田町に住んでみて、一番困ったことは、苦手な虫の対処をするこ
とだという。今まで見たことのない虫も出てきたり、眠れない夜もあったとか・・・
日常の生活面では、佐田町から出雲市の中心部までは、車で30分ほどで行くことが出来て便利であるし、駅も空港も比較的近くにあるので、いつでも故郷と繋がっているという安心感があるとのこと。



また佐田町の中で、一番好きな場所は『八雲風穴』だそう。涼しい環境はもちろんのこと、風太郎にいますおじさんとも親しくなり、これからの季節、行くのが楽しみになっている。

自分が好きなことを

吉田さんはこれから、色々なことに挑戦していきたいという。

まずカレーが好き過ぎて、いつも美味しいカレーを探求している。そしていつか自分や人々が笑顔になれるカレーを作れたらと考えている。同時に、地域の特性を“食”を通じて見つけて、つなげていけたらいいなと考えている。また、人前で話したり、人と話をするのが得意で、どの年代の人とも気軽に接したり、関わったりすることが出来る。

そのような自分の好きなことや得意なことを活かし、このご縁のまち出雲で、多くの人や物、場所や文化とつながっていかれたらと思っている。

吉田さんの佐田ぐらしは、まだまだ始まったばかり・・・

本格薬膳カレー講座

～スパイスが分かれば、世界中の料理が作れる～

*日時：2019年7月21日(日) 15時～20時

*場所：須佐コミュニティーセンター調理室

*料金：おひとり 4,500円(資料代・材料費等)

*講師：森佳貴氏

*定員：10名程度

*内容：2種類のカレーをスパイスから作ります。

座学と実演で基本的なスパイスの種類や

使い方を学びます。

*お問い合わせ&お申し込み

NPO法人サノオの風

(0853) 84-0833 (吉田)



出雲市のページでブログを更新中
出雲で暮らす日々のことを書いていますので、
ぜひご覧ください

【いずもな暮らし】[ニックネーム：スナフキン]

<http://izumonakurashi.jp/author/snufkin/>

いずもな暮らし スナフキン で検索



熱気に包まれた
スーパー神楽2019



↑大江山～酒呑童子～〔鈴張神楽団・あさひが丘神楽団合同公演〕

6月2日(日)に開催された佐田町文化協会主催の「スーパー神楽2019」は、過去最多の9つの神楽団が出演。それぞれに洗練された舞と奏楽を披露し、今年もまたくさんのお客様に感動と興奮をあたえました。【DVD予約はスサノオの風まで】



↑三韓〔原田神楽保存会〕

◇会 員 募 集◇

NPO法人スサノオの風は、会員の皆様のご参加で運営されています。あなたも会員になって共にまちづくりを行いましょ。

○年会費 1口 1,000円

○賛助会員 1口 2,000円

○賛助団体 1口 5,000円

詳細は『スサノオの風』までお問い合わせください。



参加チーム募集中

お申込みは
7/20まで

『佐田町野球大会』開催!

今年も野球の熱い夏がやってきます。

佐田町野球連盟主催で『佐田町野球大会』が開催されます。トーナメント方式で8月上旬から大会が始まり、決勝戦は8月中旬頃の予定です。

つきましては、現在参加していただけるチームを募集しています。日頃の練習の成果を見せる時が来ました。

詳しくは、佐田町野球連盟の今岡秀樹さんまでお問い合わせください。

◇日時：令和元年 8月上旬から8月中旬ころ

◇場所：佐田スポーツセンター グラウンド

◇参加料：1チーム 10,000円

◇試合形式：トーナメント方式の勝ち抜き戦

◇お申込み期限：令和元年7月20日(土)

◇お問合せ：今岡秀樹さん(Tel. 090-3639-4993)

○ 情報 発信 ○

「風のたより」で紹介します!

- ★地域あげてのイベントや季節の話題
- ★熱心に取り組むグループや個人の活動
- ★最近移住してこられたU・Iターンの方
- ★産業や福祉の地域起こしの動き など

お問合せは、スサノオの風まで

TEL (0853) 84-0833

随時更新中

スサノオの風の情報は本誌とともに

○ホームページ

<http://susanoo-kaze.jp/>

○Facebook

<https://www.facebook.com/susanoo0833/>

などでお知らせしています。ぜひご覧ください。



スサノオの風 で検索



風のたより



〒693-0506 島根県出雲市佐田町反辺 1747-4 ☎0853-84-0833 Fax 0853-84-0834
E-mail: susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp HP: http://susanoo-kaze.jp/

佐田の課題を捉え、考え、行動へ「さだラボ」開設

島根大学教育学部 地理学研究室



人口減少が加速化する佐田において、集落維持、若者定住などの課題を考え、地域と一緒に行動していくこと、島根大学教育学部地理学研究室(作野広和教授が、10月12日、スサノオホールに「佐田サテライトラボラトリ」(通称「さだラボ」)を開設しました。

開設行事には、地元市議会議員、出雲市、佐田自治協合理事など約40人が参加。看板の除幕に続き、作野教授から「佐田町の可能性とさだラボが果たす役割」について報告。この中で、さだラボの機能として「つなげる、関わる、調べる」の3つがあり、地域をつなげる緩衝材としての役割もあると話されました。

この後、島根大学教育学部4回生 立花祐樹さんが、8月から実施している定住調査などの中間報告を行いました。(写真)

スサノオの風も、さだラボと協働し、佐田地域での「小さな拠点づくり」の支援、地域課題解決への取り組みを展開していく考えです。また、来年2月23日は「さだラボフォーラム」(仮称)を開催します。

佐田町体育館を救え! 10,000人のなんでも市

「明日もし、あなたが体育館に来てくれるなら、あたし思い切ってフリマする」

- ◇日時：2019年12月8日(日) 10:00~15:00
- ◇場所：佐田町体育館
- ◇参加料：佐田町の方、佐田町出身の方 無料
佐田町外の方 1,000円、高校生以下 500円
- ◇募集区画：1区画 2m×2m
フリマはもちろん、飲食の出店も募集します

詳しくは、
NPO法人スサノオの風
TEL (0853)84-0833
または、チラシをご覧ください



年末に向けて、
いらぬものを整理して
お小遣いにしよう♪

佐田町体育館を救え!?

いつも佐田スポーツセンターをご利用いただきありがとうございます。

近年、佐田スポーツセンターの年間利用人数は減少の一途をたどっており、このままでは存続も危ぶまれる状態です。

みんなの思い出のつまった体育館を無くさないためにも、みなさんと協力して、佐田町を盛り上げる企画を考えました。

当日は、自衛隊の方にもご協力いただき車両の展示や、災害時の避難所体験なども予定しております。みなさんのご参加をお待ちしております。

フリマ参加者大募集!



佐田町にUIターン⑥

ひとつ、ひとつ、ダイズに

村岡 大吾郎 (むらおか だいごろう) さん

千葉県出身

神在月の出雲

2015年11月。村岡さんは、初めて出雲に来たという。もともと、出雲には興味があって行ってみたい場所だった。この時は、出雲大社の神迎神事をはじめ、島根の各地を自分の目で見て、歩き回った。

このことが、より出雲に來たいという思いを強くさせ、移住交流サイトのイベントや、しまねUIターン相談会などに参加。

その中で、出雲市の地域おこし協力隊の募集があり、応募した。その時の募集は、多伎町と佐田町。海よりも山が好きなこと、活動内容が「アグリビジネスに後継者候補として挑む」ということに惹かれ佐田町を希望したのだという。

こつこつと

2016年10月から、佐田町に協力隊として、「未来サポートさだ」を拠点に活動を始め。まずは、「さだみそ」や筍の水煮などの「加工」から一つ一つ学ぶことになる。また既存の加工商品のパッケージデザインの刷新にも取り組む。今後、目に留まりやすく、手に取りやすいデザインに変わる予定だ。また様々な種類の大豆を試験栽培し、味噌を試作したり、女性向けに大豆のペーストを試作し





たりと、大豆の良さを生かした商品の開発も行っている。次に、「産直」部門の「雲海の館」の店舗内のレイアウトの見直しを計る。より魅力のある産直市として、商品を見やすくしたり、店内に、季節に合わせた佐田町の風景を展示するなど、様々な工夫をしている。

そして、村岡さんといえば『大豆』というように、大豆の栽培に力を入れている。いろいろな土地の大豆を試験栽培している中で、2018年1月、佐田町固定種の大豆に出会う。そして、地元の方に呼びかけて、この大豆を配布し、「援農」という形で種をつ

なく協力してもらった。この固定種の大豆を大事に育て、佐田の特色として活かしていきたいという。

さらには、町内でもよく姿をみかける「草刈り」をしている村岡さん。「耕放支援隊」事業として草刈り作業が

困難になった方などを対象に、佐田町を中心に受託している。デンマーク製の草刈りロボットが導入され、その操縦者としても活躍している。

佐田町を写し留める

佐田町に移住してから、須佐神社での神事や、佐田町で古くから行われている風習や行事などを丁寧に写真に記録している。もともと、伝統や文化に興味を持っていて、元カメラマンだったこともあるが、地元の人の表情や仕草、その空気まで伝わるような写真を撮っている。



須佐神社にまつわる情景を記録した写真展を、出雲市と雲南市の計7カ所にて行い、多くの人に見てもらい、好評を得ている。そして、この9月には写真集も発行されている。

「世代間を繋ぐ一助になれば」と村岡さんは話してくれた。

これから

2019年10月。3年間の協力隊の任期が満了した後、『未来サポートさだ』に就職し、引き続き佐田町の農業に携わっている。その中で今後は、大豆の作付面積を広げ、100%町内産大豆の「さだみそ」を作ること、新商品の開発、新たな販路の開拓など、農業の担い手として活動していきたいという、この佐田町で。



写真集 須佐の「郷」発刊

須佐神社にまつわる神事やお祭りにおける人々の情景の記録。昨年、同タイトルの写真展を開催した中から、厳選した写真集となっている。

写真集は、町内のコミセンや市内の全図書館など各施設などに配布されていますので、ぜひご覧ください。



写真提供：村岡大吾郎さん

誰でも気軽に英会話♪



8月から新しい事業として、スサノオホールで「英語カフェ」を行っています。

ドリンクとお菓子を食べながら、ときには世間話しながら、楽しく英語を学びます。

内容は、主に英会話（初級～中級程度）で、その方のご希望やレベルに応じています。

英語が好きな方も苦手意識がある方もこの機会と一緒に英語を学んでみませんか？

【英語カフェ】

【日時】

実施日時は、スサノオの風までお問い合わせください

【場所】 スサノオホール

【料金】 おひとり 500円／1時間（お茶代込）

【対象】 個人からグループ（親子も歓迎）どなたでも

【お申し込み方法】 お電話・FAX・Eメールにて

①お名前 ②電話番号 ③年齢 ④希望日 ⑤希望時間をお伝えください。

【講師】 スサノオの風職員の吉田麻衣子

大学卒業後は個別指導塾講師として、中学・高校生に英語の指導経験もあります。

あなたの旅、お手伝いします。

スサノオの風が第三種旅行業を始めました。

下記の業務を取り扱います

- 町内会旅行などの団体旅行の手配
- 個人旅行の手配
- 貸切バスの手配
- 旅館・お食事場の手配
- 航空券・JR券・高速バス券、駅弁などのチケット手配など

お問い合わせは、こちらまで

NPO法人スサノオの風
〒423-0204 北原山崎町南町1丁目1-1
携帯 080-6246-0352（八幡）
電話 0553-34-0533

◎登録旅行代理店 北原山崎町南町1丁目1-1
◎旅行業務取扱員 八幡 野田真

旅の企画やチケットの手配まで

スサノオの風では、9月から「第三種旅行業」を始めました。自治会やサークルなどの団体旅行から、個人の旅行の際に、バスや飛行機などのチケットの手配や、旅先での宿泊・お食事の手配を業務として行います。

また、佐田町の魅力を活かした、体験交流のツアーも企画していきます。

まずは旅行に関するご相談など、お気軽にお問い合わせください。経験豊かな社員が、思い出に残る旅をお届けします。皆様のご利用お待ちしております。

電話 080-6246-0352（八幡）

または、0853-84-0833まで。

ホールを活用した新たな取り組み

スサノオの風では、スサノオホールの利用促進を図ることを目的として、固定概念を少し打破した事業を展開しています。8月には、お化け屋敷「ホールの佐田子さん」、10月には、ステージ上に客席をくみ、西藤将人さんのひとり芝居を行い、新たな活用方法を考えることができました。

年々、ホール利用者も減少傾向ですが、「楽しみ」のある企画を考えていきたいと思えます。

皆さんのアイデアもお待ちしておりますので、スサノオの風までご連絡ください。



10月13日に開催した「ひとり芝居」。笑いもたっぷりあり、最高のステージでした。

風のたより



〒697-0506 島根県出雲市佐田町反辺1747-4 ☎0853-84-0833 Fax 0853-84-0834
E-mail: susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp HP: http://susanoo-kaze.jp/

新年のごあいさつ

NPO法人スサノオの風



理事長 石橋 正伸

新春のお喜びを申しあげます。

旧年中は、スサノオの風の活動に
対しまして温かいご支援ご指導を
賜り厚く御礼を申しあげます。

さて、令和2年の当法人の活動目
標としては、現在、指定管理者とし
て管理運営をさせていただいてい
るスサノオホール、佐田スポーツセ
ンター等の利用促進、多機能化によ
り施設維持に努力していきたいと
考えています。また、人口減少・高
齢化が加速する佐田地域の活性化
の一助になるように若者アイデア
を軸とした活動を展開し、佐田の情
報発信に努めていきます。

「革新・深化、町を元気にするた
めに」を目標に、スタッフ・役員一
同、頑張っていくきますので、本年も
よろしく願います。

「タニゴト」から 「ジブンゴト」へ

人口減少により社会機能が縮小す
るなかで、持続的な中山間地域振興
を図ろうと「小さな拠点づくり」が全
国的に展開されています。佐田地域
でも佐田自治協会の専門部活動とし
て2年前から取り組まれています。

こうした中、スサノオの風と島根
大学さだラボが協働して「持続可能
な佐田のまちづくりフォーラム・第
1回さだラボフォーラム」を2月2
3日(日)午後1時からスサノオホー
ルで開催します。

フォーラムでは、島根大学教育学
部作野広和教授の講演、昨年夏に町
内全世帯に協力していただいた「定

住調査」の結果からの若者定住の
方向性の発表。その他、佐田中学生
2人による「佐田の将来像」への意
見発表、県内の小さな拠点づくり
活動先進地の事例報告などを行う
パネルディスカッションを行います。

島根県の中山間地域振興の重点
施策の「小さな拠点づくり」。この
フォーラムを通して、佐田地域で
もその大切さを感じていただきた
いと思います。

色々なご都合があると思います
が、たくさんの方のご参加を心か
らお待ちしております。

2019年度 (一社)YS 市民コミュニティ財団助成事業

昔は、タニシモ、ホテルも
あったのになあ〜。
と、嘆くあなたの町が、今度は満えるかもしれない…。
今こそ、「タニゴト」から「ジブンゴト」へ

**持続可能な
佐田のまちづくり
フォーラム**
(第1回 さだラボフォーラム)

令和2年 入場無料
2/23(日)
13:00~17:00
会場:スサノオホール・大ホール
(出雲市長田町反辺1747-4 ☎0853-84-0833)

【基調講演】
元風の出る佐田の未来像 ―持続可能なまちづくり―
講 師 島根大学教育学部 教授 作野 広和

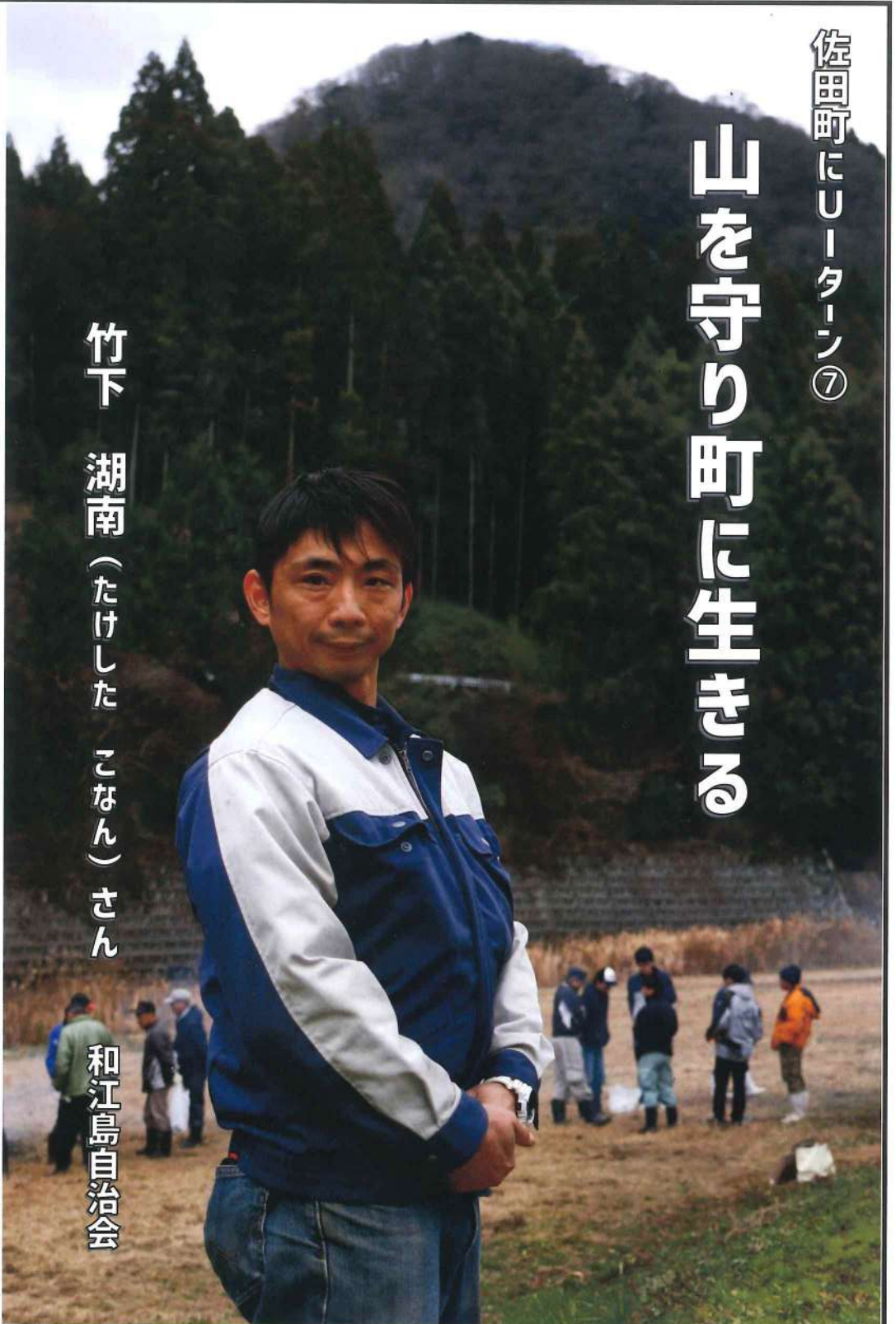
【定住調査報告】
住み続けられる佐田づくり ―佐田の若者定住動向―
発表者 島根大学教育学部 4年 立花 祐樹

【佐田中学生が描く 佐田のデザイン】
発表者 出雲市立佐田中学校 2年生 2名

【パネルディスカッション】
佐田の若年層を惹くための1歩を踏み出すために
事例報告
出雲市伊勢原店自治会 会 長 多久和輝亮
安来市エーひびきカンパニー 取締役 小田嶋 正志
佐田自治協会の小さな拠点づくり部 部長 榎田 一貴
意見交換(パネルラー) 佐田の若さん
実行 島根県中山間地域研究センター研究員 吉田 隼

【お申し込み】
電話または
ホームページのフォームより⇒
【お問い合わせ】
NPO法人スサノオの風 84-0833

山を守り町に生きる



竹下 湖南（たけした こなん）さん 和江島自治会

林業のしごと

2008年4月1日、出雲地区森林組合に山林作業員として入社し、一年間の組合内研修を経て、2009年4月1日より現場に配属となる。職務内容は苗木の植え付けから下刈り、木の間伐で、主に多伎町や佐田町の山林現場へ向かっているそうだ。あとは、出雲市からの委託を受け、山の所有者や面積を調べる、地籍調査

の仕事も担う。林業の仕事について、自然の中で仕事をするので、体力的な厳しさを感じる時があるという。

その反面、すぐに結果が出るわけではないが、オールシーズンを通して木の成長や変化を見られること、あたたかい日差し、そよ風など四季を感じながら昼食をとれることもこの仕事の醍醐味だそうだ。また、職場には佐田町の出身者が多く、その面で

様々な職種を経験

とても頼もしく感じているという。

神奈川県内の大学を卒業後、中学校、特別支援学校の教員、スポーツインストラクター、大手販売店のレジエッカラー、自動車部品の製造・組み立て、外国人技能実習に関する仕事など、様々な職種で経験を積んできた。

2007年12月、家庭の事情を機に、生まれ育った佐田町にUターンした。

島根県出雲市のほか、神奈川県、広島県と各地での居住経験はあるが、「地元の事業所に就職出来て嬉しい。」と顔をほころばせる。しっかりとご自身のこと、そして町への思いを話される姿勢からは、故郷への愛と真面目で責任感の強い人柄が伺えた。



町の印象

竹下さんが小・中学生の頃は、町民体育大会や親睦バレーボール大会など家族総出で参加するイベントがあり、老若男女、地域の人と共にする機会も多く、町が賑わっているという印象があった。

現在の佐田町の印象を問うと、

「町がさみしいです。」とのこと。子供の頃に比べて、核家族化が進み、イベントの規模も縮小傾向にあり、折に触れて、町の人口減少を身をもって感じているという。



イズモコバイモの活動

山河が豊富にある佐田町の資源を活かし、自然に歩み寄りたいたいという思いで、半年前から反辺の「発見地反辺のイズモコバイモを守る会」に参加し、ボランティア活動を行っている。

イズモコバイモとは、ユリ科フリチリア属の球根植物で春先に白い花を咲かせる山野草である。今後はこの会の活動を通して、絶滅危惧植物でもあるイズモコバイモを守っていききたいという思いがあるそうだ。そのためにも、保護柵や案内看板を作り、より一層コバイモの保護の必要性をその地に訪れた人に呼び掛けていきたいという。

佐田町の好きな場所

佐田町で好きな場所は、八雲風穴と近所にある田畑を含む神戸川の河川敷だ。

河川敷は子供の時に釣りをし、泳いでいたこともあってか、そこにいると心なしか自然と心が落ち着くという。ウターンして町に戻ってきてから

は、河川敷には田んぼと小さな畑があり、その水田や畑で作業していると、子供の頃を思い出すこともあり、懐かしくなる時もあるそうだ。

今後の展望

最後に、これからの抱負について聞いてみた。自然の中で行う仕事なので、自然の良さや厳しさを知って、早く林業士として一人前になりたいと決意を新たにしている。

林業の仕事、ボランティア活動などを通して、佐田町の環境整備を担う人材として今後の活躍が楽しみだ。



ストレス発散！！大爆笑！！

今年もYプロがやってくる

とある銀行で行われる防犯訓練を舞台上に繰り広げられる、笑いと感動のスペクタクル。

今年で4回目となる劇団Yプロジェクト公演を、3月8日(日) 14時より、スサノオホールにて開催します。演目は抱腹絶倒、大爆笑間違いなしの『バンク・バン・レッスン』です。

チケットはスサノオの風などで絶賛販売中です。ぜひ、ご家族ご友人お誘いあわせの上、スサノオホールへ笑いにきてください。

詳しくはホームページにて。

爆笑!? ドラマコメディ! バンバン笑ってストレス発散!!
バンク・バン・レッスン
 Bank Bang! Lesson
 2020.3/8日
 13:30開演 - 14:00開演
 スサノオホール

参加者大募集
 新しい自分と出会う!
 楽しい演劇体験!!

さだのちいさなマーケット cotaba
 3月8日(日) 10:00~14:00 開催
 食べ物や雑貨、リラクゼーションのお店で
 公演前にお楽しみください。

今月のワンポイント English

今年は4年に1度の「うるう年」です。
 「うるう年」って英語でなんて言うの?
【うるう年】 ⇔ 【leap year (リープ イヤー)】

“leap” はもともと「ぴょんと跳ねる」
 や「急激な増加」という意味があります。

＜英語カフェ＞
 英語カフェは不定期開催です。
 詳しくは、スサノオの風までお問い合わせください。

安心して暮らせる佐田町をめざして 障がい者福祉研修会開催

現在、佐田町において高齢者福祉や子どもに対する取り組みは整備されつつありますが、障がいをお持ちの方々への支援や理解はまだ十分でないと思われれます。

今回、講師に島根県相談支援アドバイザーの東美奈子氏をお招きし、「障害があってもなくても安心して暮らせる佐田町をめざして」をテーマに講演いただきます。

この機会に、障がいをお持ちの方々への正しい理解と、障がいがあっても暮らしやすい佐田町となるにはどうしたらよいか、一緒に考えてみませんか?

研修会は、佐田地区社会福祉協議会と共催で行います。

12/8 開催 明日もし、あなたが体育館に来てくれるなら、
ご来場ありがとうございました
 当日来場者数 **705** 名
 今年度佐田スポーツセンター利用者累計 7,983 名
 (2019/12/31 現在)

来てくれてありがとうね!

○日時 令和2年2月13日(木)
 午後3時から4時15分
 ○場所 佐田行政センター 3階会議室
 ○参加料 無料
 ○問合せ やまびこ園 8518005

出席者佐田町障がい者福祉研修会
 障がい者であってもなくても、安心して暮らせる佐田をめざして

講師 東美奈子
 島根県相談支援アドバイザー
 障がい者に対する理解と支援の重要性について講演する。

令和2年2月13日(木) 午後3時から午後4時15分
 佐田行政センター 3階会議室
 参加費 無料
 申し込み 無料
 申し込み先 佐田行政センター 3階会議室
 電話 8518005

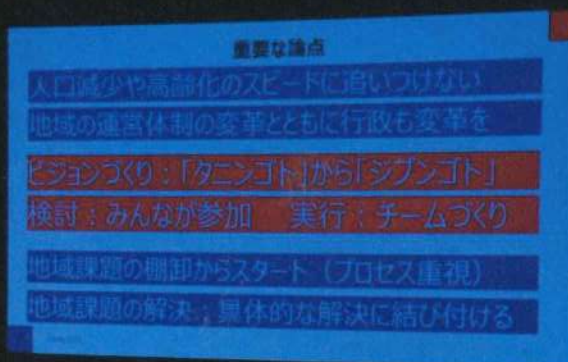
Nonprofit organization Susanoo no kaze
NPO法人スサノオの風 第144号(臨時号) 2020年春

風のたより



E-mail: susanoo.kaze@m1.izumo.ne.jp HP: http://susanoo-kaze.jp/

〒693-0506 島根県出雲市佐田町反辺 1747-4 TEL: 0853-84-0833 FAX: 0853-84-0834



「ジブンゴト」として佐田を考え、実践していこう

～持続可能な佐田のまちづくりフォーラム兼第1回さだラボフォーラム～

人口減少が加速する佐田地域で「小さな拠点づくり」を進めていこうと、令和2年2月23日(日)午後1時からスサノオホールで「持続可能な佐田のまちづくりフォーラム兼第1回さだラボフォーラム」(主催: NPO法人スサノオの風、島根大学佐田サテライトラボラトリー協力: 佐田自治協会)を開催しました。フォーラムには約180名が参加。定住調査報告、佐田中学生による意見発表資料、パネルディスカッションと盛りだくさんの内容でしたが、参加者の皆さんは最後まで耳を傾けていました。このフォーラムを通して、一体となった地域づくりへつながればと思います。(講演等の内容は、要約して2~4面に掲載しています)

基調講演

元気が出る佐田の未来像 地域ビジョンをどう描くか

島根大学教育学部 作野広和教授



昨年夏に実施しました「定住調査」では、振興協議会、自治会長の皆さんにご協力いただき、約90%の方にこ

回答いただきました。このような地域はないと思います。心から感謝申し上げます。

●佐田に帰る意思、「分からない」37%に注目

佐田からの転出者の動向をみますと、佐田以外の出雲市への転出者が最低で2338人、場合によっては4934人と見込まれます。出雲市以外も含めた転出者のUターンの意思ですが、帰らない方が多いですが、「分からない」と答えた37%の方に注目し、可能性のある方と考えることができます。佐田は、地域のつながりの強い所と言えます。半面、近所付き合いに煩わしさを感じている人もあります。「暮らしやすい地域」にしていく必要があります。

●みんなで考えるプラットフォームが必要

佐田の住民自治組織の構造は、4層構造となっております。意思決定に時間を要したり、柔軟性、機動性に欠けたりします。振興協議会は、長年の歴史があり構造を変えることは相当難しいと思います。そこで、家の集まりではなく、人の集まりをつくり、地域のことをみんなで考えるプラットフォームが必要だと思います。



●ビジョンづくりのプロセスが大切

地域課題の解決と地域資源の活用。守りと攻めの2点でやっていく必要がある。佐田には組織とポイントとかがありますが、計画づくり、人づくりがないと言えます。計画づくりで地域のビジョンをみんなで作る。みんなで作るときのプロセスが大切と言います。また、実践するのは住民が一義的ですけど、住民だけでは出来ません。行政も入らなければいけないと断言します。どのような地域にしていきたいか、行政もメッセージを発する必要がある。再来年度にはぜひとも行政を動かしていきたいと思えます。

調査報告

佐田町は男性のUターンに注視

島根大学教育学部4年生 立花祐樹さん

Uターナー者59名にヒアリング、転出者44名には調査表記入でご協力をいただき感謝申し上げます。

●Uターナー者は地域活動に積極的に参加
調査対象は20代から40代の方で、世帯構成、職業、前住地、転入時の弊害、生活状況、地域活動参加状況等を調査項目としています。この中で、移住する際に地域に溶け込めるかという不安に感じている方が



多く、移住者を受け入れる雰囲気づくりが大切と言えます。また、生活の利便性の面から、佐田町に定住が出来ないと考えているUターン者が多いということが明らかにになりました。

●佐田以外の出雲市転出者は、佐田への帰還意識は低い

調査対象は、20代から40代の方で郵送による調査を行いました。調査項目では、転出要因、佐田の暮らしやすさ、帰還意思等です。この中で出雲市への転出者は多いですが、帰還意識は低く、これが佐田町の人口減少のメカニズムと言えます。

●出雲市のUターン政策は、地域的差異を考察する必要がある

出雲市では、女性のイターン者を注視していますが、佐田の場合、男性のUターン者に注視すべきと考えます。また、同じ出雲市内であっても、Uターン施策に地域的差異が必要と考えます。Uターン調査を実施し、地域的特性にあった施策構築が求められると考えます。



▲フォーラム終了後、登壇者、参加者の皆さんと茶話会として、楽しい時間を過ごしました。



佐田中学生が佐田町についてどのようか調べているか調査しました。その結果、「ひと」「もの」「こと」の3つに分けました。この3つがうまく重なれば、佐田はより良い町になり、発展していくと考えます。

「ひと」では、人口を増やす対策が必要です。例えば、企業誘致、観光スポットのPRをし、佐田で働きたい、佐田の良さを知ってもらうなど興味をもってもらう必要があります。「もの」では、人との関係を豊かに出来るものを増やす事、例えば、地域行事で地域民が触れ合う機会を増やす必要があります。

「こと」では、佐田

意見発表

「MVP」を大切に

佐田中学校2年生

藤井 惠照さん
小山 瑠花さん

の行事を積極的にPRしないと佐田に興味を持つ人が少なくなります。

佐田町の発展のために、使命、見通す力、情熱をもって取り組むことで成功や発展につながります。私たちも佐田町が発展できるように佐田中生として貢献していきます。



来賓のあいさつ (要旨)



出雲市総合政策部次長
三島 慎也さん

佐田町にお住まいになられている皆様は、どういう町をつくりたいか、どういう町にしていきたいかという、そういった意識、意欲を持っていただくことが何よりも必要です。そのことによって、20年先30年先、皆さんの子供さん、孫さん、あるいはその先の世代の皆さんに、佐田が住みよい、住みたいと思う地域を創っていただきたいと思います。



YS市庭コミュニティ財団
理事長 東島 信明さん

佐田に住む皆様が過去を振り返って、今を思う。そして考えて、ちょっと先の未来を、また皆で話し合いをしましょう、そのコミュニケーションが大切なのです。このフォーラムは、そうした場の一つと思います。一番大切なのは、コミュニケーションをするということなのだということに、私は理解しております。

このフォーラムは、(一財)YS市庭コミュニティ財団(東京)の助成を受け開催しました。



ビジョンは地域づくりの礎。ジブ
ゴトとして、皆で参加し創りあ
げよう。そして実践を。

●住民の違いを持ち味に読み替え、出番を準備する事が大事（伊野地区）

伊野地区は、小学校の統合問題に直面した時、約2年間、住民討議をしてきました。結果、存続は決まり、学校との関係性は深まりました。また、小学生も授業の中で「まちの幸福論」を学び伊野に関心をもち、「伊野いち」などに積極的に参加してくれます。伊野も人口減少が顕著です。こうした中、伊野の現状を紹介する動画を作成し各地区をまわり、地域課題や解決方法を語り合いました。伊野の将来ビジョンをつくる戦略会議」を組織化し進めています。

●ビジョンから生まれた株式会社・地域づくりの要に（安来市比田地区）

比田地区は、平成27年から地域ビジョンづくりに着手しました。アンケート、先進地視察、ワークショップなど住民参加で進め、1469個のアイデアが生まれ、88個を戦略プランとして位置づけました。そのプランの中から生まれたのが、えーひだカンパニー（株）です。この会社の理念は、自治機能と生産機能の発揮による地域ビジョンの実現と「えーひだ」の創造です。推進していくために「ひだ米プロジェクト部」「定住促進部」など8つの部会を組織し特色的な活動を展開しています。

●今回のフォーラムを機に有機的な活動の展開を（小さな拠点づくり部会）
佐田自治協会小さな拠点づくり部会は、2年間にわたり活動してきました。最初は暗中模索、今は組織の棚おろし調査など。少し行く道が分かり、今後は具体的課題の解決につき協議していく必要があると考えています。

●若者の参画状況、財源等に質問

伊藤さん、神田さん

自治協会運営の財源確保の方法、若者の声をどう届けるか、ビジョンづくりの大切さについて質問がありました。

●講評 情熱をどう醸成するかが重要

作野広和教授

佐田の皆さんもビジョンは出来ます。最後は、情熱が大事で、この感覚とどういう熱量をどう醸成するかが重要です。今日のような会で「よっしゃ」という気持ちになる、自治会の皆さんに話す、そういうことが大切と言えます。



★パネルディスカッションでお話いただいた方★

・出雲市伊野地区自治協会会長 多久和祥司さん（写真①）・安来市 えーひだカンパニー（株）取締役 野尻ちさとさん（写真②）・佐田自治協会小さな拠点づくり部会長 福谷一真さん（写真③）・窪田ミライ会議 伊藤恵さん（写真④）・佐田自治協会小さな拠点づくり部会副会長 神田千俊さん（写真⑤）・講評 作野広和教授・進行 島根県中山間地域研究センター研究員 吉田翔さん（写真⑥）【写真は、上から①②③④⑤⑥となっています】

